平成28年度 ヒトを対象とする研究に関する倫理承認一覧

登録	申請者(研究責任者)			
番号	所属	職名	氏名	研究題目
16-1	人文社会科学部	教授	井柳 美紀	日本の将来に関する静岡県民による意見交換会
16-2	人文社会科学部	教授	橋本 剛	類似経験による認知的共感の正確性と確信度
16-3	人文社会科学部	教授	橋本 剛	ポジティブ活動とウェルビーイングの関係に対する道徳基盤の調整効果
16-4	人文社会科学部	准教授	堂囿 俊彦	成年被後見人等が自己決定することの支援に ついての考察
16-5	人文社会科学研究科	教授	幸田 るみ子	がん患者家族の悲嘆反応と死生観およびソー シャルサポートの関連についての研究
16-6	人文社会科学研究科	教授	田辺 肇	セクシュアル・アラスメント相談の促進及び二 次被害等不利益の防止に関する質的研究
16-7	人文社会科学研究科	教授	田辺 肇	解離に対するセルフ・コンパッションの調整効果
16-10	人文社会科学部	教授	江口 昌克	リハビリテーション専門職の感情労働とバーンアウトの関連ーバーンアウト・プロセスの検証と表層演技及び深層演技が治療関係に及ぼす影響ー
16-11	人文社会科学研究科	教授	田辺 肇	authenticな生き方に関する実証的研究ー "authenticity"概念の再検討を通じて一
16-12	人文社会科学研究科	教授	笠井 仁	夢体験と心的境界との関連ー境界の厚薄に 着目してー
16-13	人文社会科学研究科	教授	笠井 仁	自己破壊行動と対象関係の関連
16-14	教育学部	教授	杉山 康司	運動時の体温上昇が呼吸化学感受性へ及ぼ す影響
16-15	教育学部	教授	鈴江 毅	がん教育における養護教諭の役割に関する 研究
16-16	教育学部	准教授	石川慶和	精神疾患の児童生徒の地域移行に向けた特別支援学校の取り組み

平成28年度 ヒトを対象とする研究に関する倫理承認一覧

登録	申請者(研究責任者)			7T CO BS C
番号	所属	職名	氏名	研究題目
16-17	教育学部	准教授	石川慶和	重症心身障害児・者の母親のレジリエンス
16-18	保健センター	准教授	太田 裕一	学生相談実践におけるカウンセリングの効果 に関する評価方法の開発
16-19	情報学部	教授	竹林 洋一	マルチモーダル加齢行動コーパスの深化と利用に関する研究
16-20	人文社会科学研究科	教授	幸田 るみ子	風景構成法の大景群に見る異文化比較〜日 米大学院生の比較から〜
16-21	教育学研究科	教授	大塚 玲	自閉症スペクトラム障害のある児童のパーソ ナルスペース
16-22	教育学研究科	教授	大塚 玲	知的障害児の視空間性ワーキングメモリ
16-23	教育学部	教授	冬木 春子	親の社会経済的環境からみる幼児の生活習 慣に関する調査研究
16-24	教育学部	教授	小林 朋子	小中学生の「精神的回復力(レジリエンス)」と 生活習慣との関連について
16-25	教育学部	准教授	石川 慶和	子どもとの死別による教員の悲嘆とその反応
16-26	人文社会科学研究科	教授	白井 千晶	妊娠・出産・産後の女性と医療者との相互作用のありようー病院・診療所における援助場面を継続的に観察してー
16-28	教育学部	准教授	中道 圭人	幼児期における顔の知覚処理速度と他者の 感情理解の関連
16-29	教育学部	准教授	中道 圭人	幼児における仲間集団の中での同調行動
16-30	教育学部	准教授	井出 智博	不適切な養育を受けた子どもに対する学習支援において教師経験者は何を重視するのか
16-31	大学教育センター	准教授	須藤 智	高齢者の人工物の使いやすさのメカニズム解明と, その利用を促進する学習環境に関する認知工学的研究

平成28年度 ヒトを対象とする研究に関する倫理承認一覧

登録	申請者(研究責任者)			研究題目
番号	所属	職名	氏名	切 九超日
16-32	大学教育センター	准教授	坂井 敬子	保育士のキャリア形成における阻害要因の研究
16-33	人文社会科学研究科	教授	荻野 達史	産業保健分野における精神保健福祉士の期 待される役割
16-34	教育学部	教授	村上 陽子	大学生における豆類の嗜好に関する研究
16-35	教育学部	教授	小林 朋子	小中学校教師のレジリエンスを高める要因に 関する研究
16-36	教育学部	准教授	鎌塚 優子	子どもに心の問題が存在する可能性があると 判断するときの養護教諭の視点-重症化の予 測と予防を目的として視点の有用性を高める-
16-37	教育学部	准教授	井出 智博	学校における性の多様性をめぐる現状と課題 について
16-38	教育学部	講師	山元 薫	学校経営におけるユニバーサルデザインの理 念の活用と効果